鼎談企画

キラメキテラスが変える鹿児島のまちづくり

5月16日、鹿児島市高麗町の市交通局跡地に都市機能集約型施設「キラメキテラス」がグランドオープンしました。滞在型外資系ホテルと商業オフィスに加え、急性期と回復期・慢性期の医療機関が連携する施設。南国殖産の永山在紀社長とキラメキテラスヘルスケアホスピタルの髙田昌実理事長、いまきいれ総合病院の今給黎和幸理事長に、健康で幸せな未来「健〝幸〟」をテーマにしたまちづくりが、鹿児島の経済や観光、市民生活に与える効果について聞きました。

いまきいれ・かずゆき
1969年鹿児島市生まれ。福岡大学医学部卒。鹿児島大学医学部第2内科、鹿児島県立薩南病院消化器内科部長などを経て、2017年、今給黎総合病院副院長に就任。19年から公益社団法人昭和会理事長。

ながやま・ありのり
1940年鹿児島市生まれ。一橋大学経済学部卒業後、積水化学工業入社。東京支店長だった96年に退社し、南国殖産に入社。取締役企画部長、常務取締役を経て2004年から現職。

たかた・まさちか
1954年鹿児島市生まれ。聖マリアンナ医科大学卒業後、鹿児島大学医学部第2内科入局。国立指宿病院、国立志布志病院などを経て2006年から医療法人玉昌会理事長。

キラメキ南国ビル屋上にて撮影

多世代にわたってにぎわう 健〝幸〟のまちづくり

―滞在型外資系ホテルと商業オフィスを含めた複合施設、急性期と回復期・慢性期の医療機関などが連携する、健康で幸せな未来「健〝幸〟」をテーマにしたまちづくりによる経済的影響をお聞かせください。

永山　南国殖産は地域の総合商社として、都市開発事業にも注力してきました。鹿児島市交通局跡地の再開発事業が2015年に公募となり、地元の事業者として応募すると決めました。市民に100年近く親しまれた広大な土地の開発テーマを考えるにあたり、鹿児島の中心産業は観光とヘルスケア、医療・介護ではないか、と判断。急性期病院の昭和会いまきいれ総合病院と玉昌会高田病院に、地元事業者としてやりたいとお声を掛けて、コンソーシアムを立ち上げました。開発のテーマは「30年後の贈り物」。30年後には、乳児は働き盛りになり、働き盛りはシニアになる。30年たっても、いきいき輝いている街でなければいけない。多世代にわたって街がにぎわうのは、やはり観光やヘルスケアの分野ということで、進んでいきました。次世代のまちづくりは多世代の複合スペースであるという形で、コンセプトを練り上げてきました。

髙田　2015年から考える30年後とは2040年代です。その時キラメキテラスは、地域に総合的に対応していく空気みたいな機能になっているのではないか、と思っています。その頃、人口が120万人になると予想される鹿児島県は、40万人以上が65歳以上で、医療・介護・福祉から生活支援サービスまで、総合的なサービスが求められます。今給黎先生たちの高度急性期を含む急性期と、私どもの回復期、そして在宅医療を含む慢性期が一緒になって、地域住民の重層的な課題を、できるだけ解決していくということが、キラメキテラスの機能だと考えています。キラメキテラスは鹿児島にとってなくてはならない「まちのエンジン」になっていくと思っています。

今給黎　高齢者の医療ニーズは基礎疾患が複数で複雑となり、地域完結、機能分化、役割分担をして全体的に対応する必要があります。急性期から慢性期まで、シームレスな医療提供ができるのは、大きなセールスポイントです。一方、予防医学に努めて健康寿命を延ばすことも必要になります。キラメキテラスをきっかけに、人の流れが変わります。鹿児島中央駅や天文館、甲突川リバーサイドといった点と点を結び、途中で散策を楽しむ仕掛けを作ることで、人の流れと一緒に人が歩くことで健康増進につながり、ひいては健康寿命の延伸が期待できるようなまちづくりが始まると思っています。これらのサービスを使うことで、社会保障費抑制や経済効果が期待されると考えています。

海外客に鹿児島の魅力発信 観光の滞在消費増やしたい

―多機能の多くの施設が連携することで、新しいマーケットの創出をはじめさまざまな相乗効果が期待されます。「キラメキテラス」が鹿児島の観光に与える効果についてお聞かせください。

永山　計画した2015年段階で、鹿児島県には外資系ホテルがありませんでした。外国の富裕層を誘客するとともに、将来、国際会議や展示会などの「MICE」の宿泊施設として、やはり鹿児島には外資系ホテルが必要だと考えました。マリオットグループは世界最大のホテルグループで、1億7000万人の会員を擁します。私たちはマリオットグループと2017年末にMC契約を締結し、契約から7年目に開業の運びとなりました。鹿児島には雄大な桜島や錦江湾をはじめ、屋久島と奄美大島・徳之島という二つの世界自然遺産や、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産群」もあります。鹿児島は黒牛・黒豚やお茶といった優れた食文化など、観光資源に恵まれています。訪日外国人を鹿児島に誘致して、県内各地の観光名所を回遊してもらうことで、滞在消費を増やすことにつながります。今後も官民一体となって観光産業にさらに寄与していきたいと思っています。

髙田　キラメキテラスには、日本で初めての取り組みが数多くあります。それは「コンパクトシティ」という形の、計画されたまちづくりです。今後、同じように人口が減っていく地域の行政や医療関係者が、高度急性期を含む急性期と在宅まで、一気通貫のサービスを提供できるハード面の仕組みと、ソフト面の仕組みに興味を持つと思います。いろんなまちづくりに関係する人たちが、見学という形で鹿児島に来て、滞在して、観光をして戻っていく。従来の観光施設という形で観光客を呼ぶということも重要ですが、「コト主義」という意味で、キラメキテラスは鹿児島の観光産業に貢献できると思っています。

今給黎　福岡にもマリオット系列ホテルがあり、マリオット会員という富裕層に新幹線の終着駅である鹿児島に足を運んでもらえると期待しています。ホテルを起点に、屋久島など鹿児島県内のさまざまな観光地を巡るオプショナルツアーを企画してもらいたい。桁違いの富裕層が長期滞在することで、地元への経済波及が期待できます。そして、滞在期間が長くなると、急病などの医療対応が心配になります。そういう意味で、医療チームがサポートする役割が出てくると思います。「縮む社会」といわれる2040年には医療ニーズが変わると思われます。その時こそ、われわれが医療ツーリズムに参入するチャンスだと思います。病院も医療ニーズを見極めて、対応の仕方を変えていくべきだと考えます。

次世代のまちへ変貌遂げる 安全・安心で便利なエリア

―「キラメキテラス」の誕生による、県民や市民ら、人々の生活に関する影響や効果についてお聞かせください。

永山　キラメキテラスは二つの医療施設、商業オフィス棟、外資系ホテル、駐車場、熱と電気を供給するエネルギーセンターとマンションという七つの施設があります。このまちのマンションに住む方々、施設で働く方々、商業施設に集まる方々を合わせると、6500人にも上ります。今回のホテル開業でさらににぎわいを増すでしょう。さらに二中通りをはじめ周辺のお店がリニューアルするなど、鹿児島の中心に位置するこのまちが、次世代のまちに年々変貌していくと思われます。鹿児島市には鹿児島中央駅や天文館など、核となるまちがありますが、キラメキテラスも、5年、10年たつと、さらににぎわいを増すでしょう。この次世代のまちが雇用を新しく生み出し、周辺のまちづくりに大きな影響を与えると思っています。七つの施設それぞれが、市民生活にも経済的にも大きな効果を与えていけるのではないか、と思っています。

髙田　2015年交通局跡地再開発事業のコンペで鹿児島市から出されたテーマに、地震や台風、津波などの災害時に、どのような機能を果たすのか、がありました。三者で話し合い、津波を想定してテラス（1階階高）を6メートル以上にする、テラスで全部つなぐ、災害時には地域の方々が逃げ込んでこられる施設を、最初から想定して造っています。災害時には避難所として、けがをした人は、いまきいれ総合病院で対応し、高齢の方や少し体力が落ちた方は、キラメキテラスヘルスケアホスピタルで診察し、元気な方は1週間程度は施設内で過ごせます。鹿児島で一番安全で安心な、そして便利なエリア、というのがキラメキテラスの売りだと思っています。

今給黎　われわれ医療従事者はヘルスケアを通して、地域向けの「健康まつり」や市民公開講座を企画し住民への健康増進の啓蒙活動も行おうと決めています。高齢化が進んで医療・介護へのニーズが高まっており、適切な情報発信や多世代に対する重層的な相談に取り組んでいこうと思っています。求められているのは、多世代、全産業で支え合う共生社会です。われわれ医療従事者だけでなく、いろいろな産業や行政の方々にも、多角的な視点で相談業務に関わってもらいたい。また、当院は周産期医療にも取り組んでいます。社会的背景から、高齢出産などハイリスク出産が増えています。NICUに入院する新生児は、その後のリハビリケアが大切です。発達支援センターや玉昌会の小児リハビリとも連携して、地域の少子化対策にも貢献できれば、と考えています。

キラメキテラスとは

鹿児島市交通局跡地約2万5000平方メートルの敷地内に二つの医療施設、商業オフィス棟、外資系ホテル、駐車場、熱と電気を供給するエネルギーセンターとマンションの七つの施設からなる複合施設。健康で幸せな未来を意味する「健〝幸〟」の拠点と位置づけ、「世代を超えていきいきと生涯かがやくまち」を目標に、交流人口増加を目指し、鹿児島のコンパクトシティ形成のためのモデルとなる事業を展開しています。

企画・制作／南日本新聞社 営業局